

第11節 景観

1. 概要

事業実施による主要な眺望景観及び身近な景観（圍繞景観）への影響のおそれがあることから、予測を行った。

主要な眺望景観とは、視点場（展望台など）から視対象（眺められる対象物）を眺望したときの視覚で捉えられる景観のことである。

身近な景観（圍繞景観）とは、「身の回りの景観として認知される場」と定義^{※1}されており、主要な眺望景観だけでなく、その地域の住民の視点から圍繞景観を把握し、改変される場所の自然環境や生活環境の状況の変化を予測評価するものである。

※1) 環境庁環境影響評価技術検討会中間報告書 自然環境のアセスメント技術（Ⅱ）（平成12年9月：環境庁企画調整局）

2. 調査結果

(1) 調査目的

事業実施による主要な眺望景観及び身近な景観（圍繞景観）への影響を把握することを目的として、文献調査及び現地調査を実施した。

(2) 調査手法

1) 主要な眺望景観

調査項目は下記のとおりとした。

- ① 主要な眺望点の状況
- ② 景観資源の状況
- ③ 主要な眺望景観の状況

「主要な眺望点の状況」、「景観資源の状況」については、既存の文献資料等により把握した。また、「主要な眺望景観の状況」については、現地調査を実施し、写真撮影により視覚的に把握した。

なお、主要な眺望点とは、「不特定多数のものが利用している景観資源を眺望する場所」であり、主要な景観資源とは、「景観として認識される自然的構成要素として位置づけられるもの」とし、以下の選定基準を参考に抽出した。

表 6.11-1 主要な眺望点

No.	
1	地形図及び地方公共団体等の観光資料などにあげられている展望台など
2	地形図記載の峠で眺望の良い場所
3	キャンプ場、ハイキングコース、自然遊歩道等の野外レクリエーション地で眺望の良い場所
4	観光道路上で眺望の良いパーキング、道の駅等の眺望の良い場所
5	集落周辺の眺望の良い場所、寺社等地域に密着した眺望の良い場所
6	文化財保護法や条例で指定された自然的構成要素と一体をなす名勝のうち、展望地点として指定されているもの

出典) 国土交通省 国土技術政策総合研究所、独立行政法人 土木研究所：道路環境影響評価の技術手法（平成24年度版），平成25年3月

表 6.11-2 主要な景観資源

要素	内容
名勝	文化財保護法、条例で指定された自然的構成要素と一体をなすもの
自然遺産	世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条例で登録されているもの
景観資源	第三回自然環境保全基礎調査 自然景観資源調査報告書（環境省）で選定されているもの
自然景観資源	地方公共団体の条例で指定されている自然景観資源、市町村要覧、観光関連資料等で記載されている自然景観資源

出典) 国土交通省 国土技術政策総合研究所、独立行政法人 土木研究所：道路環境影響評価の技術手法（平成 24 年度版），平成 25 年 3 月

2) 囲繞景観の状況

調査手法は、環境庁（現環境省）がまとめた報告書「環境影響評価技術検討会中間報告書 自然環境のアセスメント技術Ⅱ（平成 12 年 9 月）」における囲繞景観を把握するための調査の考え方に準じ、実施した。

調査項目及び調査手法を表 6.11-3 に示す。

表 6.11-3 調査項目及び調査手法

調査項目	調査手法
景観区の区分	事業実施区域内における植生、地形及び利用等の状況を踏まえ地域区分を行い、事業実施区域の景観区を区分した。
囲繞景観の状況	景観区の状況として、場の状態、利用の状態、眺めの状態を把握するため、景観区において、写真撮影を行った。

表 6.11-4 囲繞景観の状態を把握するための項目

項目	内容
場の状態	囲繞景観を構成している物理的、生物的、人文的対象そのものの状態を把握する。景観区毎に地学要素、自然現象、生物要素、人文要素の観点から、個々の要素の状態を把握する。
利用の状態	囲繞景観を認知する人間の存在を把握することであり、景観区毎に利用者数、利用者の属性、利用形態を把握する。
眺めの状態	囲繞景観の状況を視覚的に把握することであり、景観区毎に写真などの視覚的情報を整理する。

(3) 調査時期

調査時期を以下に示す。

表 6.11-5 圍繞景觀の調査時期

調査項目	調査時期	
景觀資源 主要な眺望点 主要な眺望景觀	春季	平成 27 年 5 月 11 日
	夏季	平成 27 年 8 月 29 日
	秋季	平成 27 年 11 月 21 日
	冬季	平成 27 年 2 月 19 日
身近な景觀 (圍繞景觀)	冬季	平成 29 年 1 月 19 日

(4) 調査地点の選定

1) 眺望景觀の地点

調査地点は、既存の文献資料等により抽出した調査地域内の主要な眺望点及び景觀資源の分布、視覚的關係及び対象道路の位置關係を踏まえ、主要な眺望景觀の変化が生じると想定される「苗木城跡」、「美乃坂本駅」、「坂本地区の広域農道」とした。眺望景觀の調査地点を図 6.11-1 に示す。

2) 景觀区の区分

圍繞景觀の景觀区分は、当該地域の土地利用状況を踏まえ、6 地域に区分した。各景觀区における調査地点は、事業実施区域方向を望む近景域（半径 500m 程度が視認される地点^{※1}）を目安として、対象道路の目立ちやすさから圍繞景觀の変化が大きいと推定される地点及び当該地域を代表する景觀である恵那山又は笠置山を眺望できる地点を選定した。圍繞景觀の景觀区分、調査地点を図 6.11-2 に示す。

※国土総合研究所による圍繞景觀の評価手法に関する研究では、影響範囲を事業実施区域端から約 500m の範囲に設定している。（圍繞景觀の評価手法に関する調査：国土総合研究所 藤原宣夫、小栗ひとみ）

表 6.11-6 景観区及び調査地点

景観区分	調査地点 No.	周囲景観の概況
千旦林北地区	1	集落内から笠置山が眺望できる地点
	2	集落付近の耕作地から田園風景が眺望できる地点
岩屋堂地区	3	集落内から岩屋堂観音が視認され、笠置山が眺望できる地点
	4	集落内から岩屋堂ハナノキ自生地が視認され、恵那山が眺望できる地点
千旦林地区	5	集落内から笠置山が眺望できる地点
	6	集落内から恵那山が眺望できる地点
千旦林南地区	7	集落内から恵那山が眺望できる地点
	8	集落内から笠置山が眺望できる地点
坂本川地区	9	集落内から恵那山が眺望できる地点
	10	集落内から笠置山が眺望できる地点
坂本地区 (終点部)	11	集落内から笠置山が眺望できる地点
	12	集落内から恵那山が眺望できる地点



図 6.11-1 現地調査地点位置図 (主要な眺望景観)

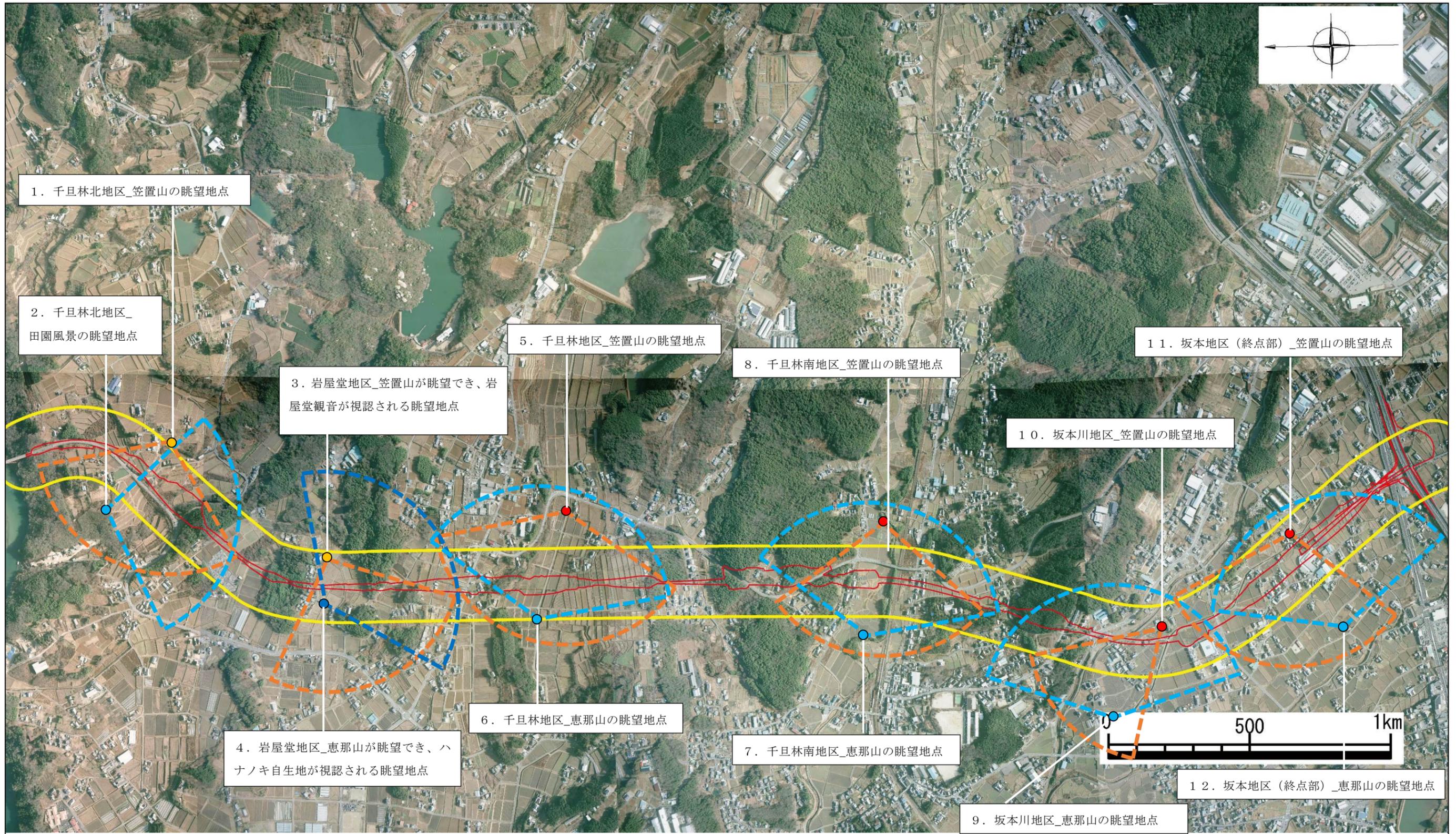


図 6.11-2 現地調査地点位置図(圏境景観)

(5) 調査結果

1) 主要な眺望景観

① 主要な眺望点の状況

調査地域における主要な眺望点として、苗木城跡、美乃坂本駅及び坂本地区の広域農道が存在する。

苗木城跡、美乃坂本駅は、対象道路による直接的な改変のおそれはないものの、対象道路に向けて、視界が開けている。

表 6.11-7 主要な眺望点の状況

名称	概要
苗木城跡	苗木城跡の頂上にある天守展望台では、木曾川や恵那山、中津川市街が一望できる絶景眺望地。
美乃坂本駅 (恵那山眺望の 視点場)	中津川市を代表する景観である恵那山を眺望できる。
坂本地区の広域 農道	

② 景観資源の状況

景観資源としては「恵那峡」、「恵那山」が存在している。

表 6.11-8 景観資源の状況

要素	名称	概要	出典
峡谷	恵那峡	標高 250～330m、長さ 14km、幅 300m。恵那峡県立自然公園内に位置し、観光地として広く知られている	1, 2, 3
山麓	恵那山	標高 2,191m。岐阜県中津川市と長野県阿智村にまたがる木曾山脈（中央アルプス）の最南端	3

出典 1) 全国観るナビ ((公社) 日本観光振興協会)

2) 恵那回遊ガイド ((一社) 恵那市観光協会)

3) 中津川・南信州イラストマップ (中津川商工会議所)

③主要な眺望景観の状況

主要な眺望景観としては、苗木城跡からの恵那峡の眺望、美乃坂本駅からの恵那山の眺望及び坂本地区の広域農道からの恵那山の眺望が挙げられる。主要な眺望景観の状況を以下に示す。

A. 苗木城跡

苗木城跡の眺望点からは、東西に流れる木曾川と木曾川沿いの樹林地、集落周辺の耕作地が眺望できる。また、木曾川に架かる城山大橋、美恵橋の状況も確認できた。

計画路線は、南側から美恵橋にすり付くように計画されているため、苗木城跡の眺望点からは、木曾川沿いや耕作地周辺に分布する樹林帯により、計画路線は視認されないものと推定された。

冬季調査結果

苗木城跡より恵那峡を臨む



[撮影日：平成 27 年 2 月 19 日]

春季調査結果

苗木城跡より恵那峡を臨む



[撮影日：平成 27 年 5 月 11 日]

夏季調査結果

苗木城跡より恵那峡を臨む



[撮影日：平成 27 年 8 月 29 日]

秋季調査結果

苗木城跡より恵那峡を臨む



[撮影日：平成 27 年 11 月 21 日]

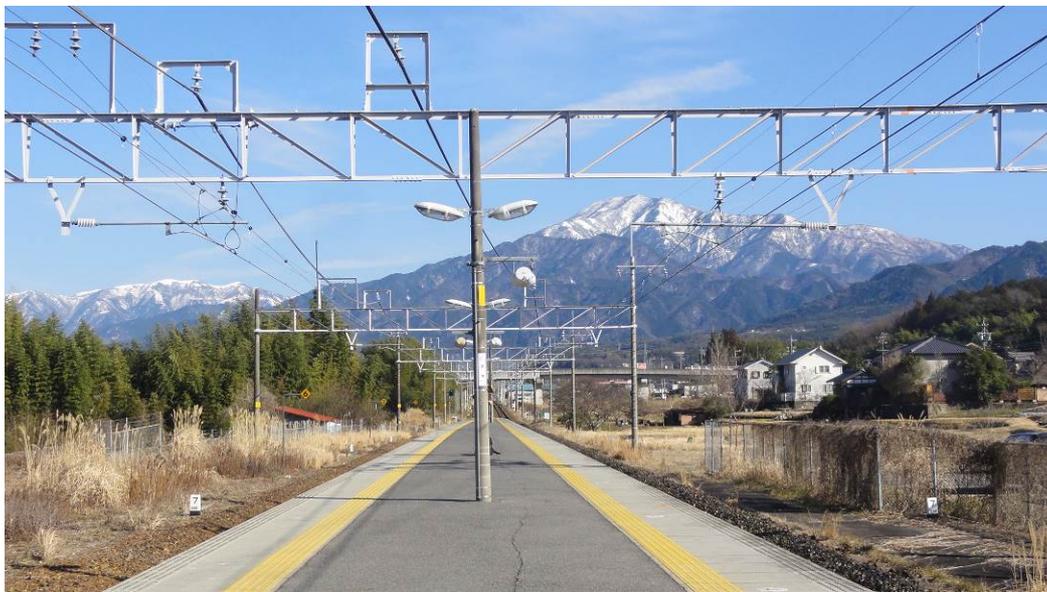
B. 美乃坂本駅

美乃坂本駅の眺望点からは、駅のホームから、積雪する恵那山が眺望できる。

計画路線は、JR 中央本線を横断するように計画されているため、美乃坂本駅の眺望点から、計画路線は視認されるものと推定された。

冬季調査結果

美乃坂本駅より恵那山を臨む



[撮影日：平成 27 年 2 月 19 日]

春季調査結果

美乃坂本駅より恵那山を臨む



[撮影日：平成 27 年 5 月 11 日]

夏季調査結果

美乃坂本駅より恵那山を臨む



[撮影日：平成 27 年 8 月 29 日]

秋季調査結果

美乃坂本駅より恵那山を臨む



[撮影日：平成 27 年 11 月 21 日]

C. 坂本地区の広域農道

坂本地区の広域農道の眺望点からは恵那山が眺望でき、農道沿いの耕作地や集落の住居も視認される。

周辺に存在する集落により、計画路線は視認されないものと推定された。

春季調査結果

坂本地区の広域農道より恵那山を臨む



[撮影日：平成 27 年 5 月 11 日]

夏季調査結果

坂本地区の広域農道より恵那山を臨む



[撮影日：平成 27 年 8 月 29 日]

秋季調査結果

坂本地区の広域農道より恵那山を臨む



[撮影日：平成 27 年 11 月 21 日]

2) 圍繞景觀の状況

① 圍繞景觀の状況把握

区分した各景觀区の状況は表(1)～(12)に示すとおりである。各景觀区について、その場の状況を把握できる向きで撮影を行った。

表 6.11-9(1) 景觀区の状況(1:千旦林北地区)

場の状態	<p>圍繞景觀を構成する地学要素としては、遠方に笠置山が眺望できる。人文要素としては耕作地、集落が存在している。</p> <p>また、景觀区内は里山・樹林環境が存在しており、樹林内ではギフチョウの卵塊や貧養湿地植物群落も確認されている。景觀構成要素には耕作地が含まれているため、季節によって農耕地や水田の状態に変化が生じる。</p>
利用の状態	<p>景觀区内には集落が存在しており、地元住民が散策や農耕活動等により、景觀区内の圍繞景觀を認知するものと考えられ、特に日中の時間帯に圍繞景觀を視認する頻度が高いと考えられる。</p>
眺めの状態	<p>景觀構成要素の大半は耕作地と草草が占めているため、視野範囲は広く、笠置山が眺望できるが、笠置山の手前には樹林が分布しているため、見通しはあまり良くない。</p>



1:千旦林北地区の調査地点(計画路線東側)から、計画路線方向を臨む

[撮影日:平成29年1月19日]

計画路線は、圍繞景觀の眺望地点よりも5m低いため、視認されない

表 6.11-9(2) 景観区の状況（2：千旦林北地区）

場の状態	<p> 囲繞景観を構成する人文要素としては水田や耕作地、集落が存在している。また、景観区内は里山・樹林環境、水辺・水田環境、河川（茶臼川）が存在しており、樹林内ではギフチョウの卵塊や貧養湿地植物群落も確認されている。現在も耕作が行われていることから、季節によって農耕地や水田の状態に変化が生じる。 </p>
利用の状態	<p> 景観区内には集落が存在しており、地元住民が農耕活動により、景観区内の囲繞景観を認知するものと考えられ、主に日中の時間帯に囲繞景観を視認する頻度が高いと考えられる。 </p>
眺めの状態	<p> 景観構成要素の大半を耕作地が占めているため、視野範囲は広く、見通しは良い。 </p>



2：千旦林北地区の調査地点（計画路線西側）から、計画路線方向を臨む

[撮影日：平成 29 年 1 月 19 日]

対象道路が通過すると想定される位置：.....

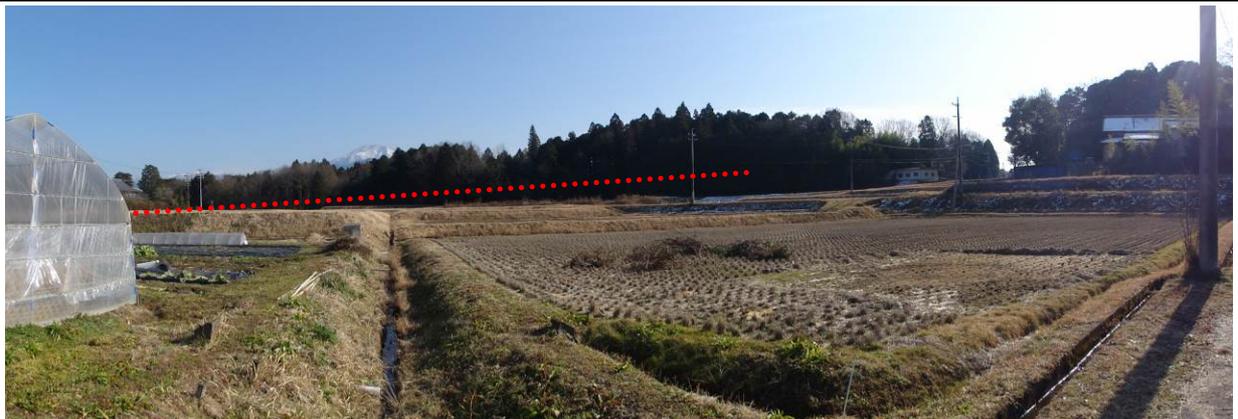
表 6.11-9(3) 景観区の状況（3：岩屋堂地区）

場の状態	<p>圍繞景観を構成する地学要素としては、遠方に笠置山が眺望できる。人文要素としては水田や農耕地、岩屋堂観音と集落が存在している。また、景観区内は里山・樹林環境、水辺・水田環境が存在しており、現地調査の結果、樹林地では里山・樹林における食物連鎖の上位種であるオオタカの生息や東海丘陵要素植物であるハナノキの群生地が確認され、水田脇の水路では淡水産貝類も確認されている。</p> <p>景観構成要素の大部分は耕作地が占めており、現在も耕作が行われていることから、季節によって農耕地や水田の状態に変化が生じる。</p>
利用の状態	<p>景観区内には集落が存在しており、地元住民が散策や農耕活動等により、景観区内の圍繞景観を認知するものと考えられ、特に日中の時間帯に圍繞景観を視認する頻度が高いと考えられる。</p>
眺めの状態	<p>景観構成要素の大部分を耕作地が占めているため、視野範囲は広く、ハナノキ群生地の樹林、岩屋堂観音が視認され、遠方には笠置山が眺望できることから、見通しは良い。</p>
	
<p>3：岩屋堂地区の調査地点（計画路線東側）から、計画路線方向を臨む [撮影日：平成29年1月19日]</p>	

対象道路が通過すると想定される位置：.....

表 6.11-9(4) 景観区の状況（4：岩屋堂地区）

場の状態	<p> 圍繞景観を構成する地学要素としては、遠方に恵那山が眺望できる。人文要素としては水田や農耕地、岩屋堂観音と集落が存在している。また、景観区内は里山・樹林環境、水辺・水田環境が存在しており、現地調査の結果、樹林地では里山・樹林における食物連鎖の上位種であるオオタカの生息や東海丘陵要素植物であるハナノキの群生地が確認され、水田脇の水路では淡水産貝類も確認されている。 </p> <p> 景観構成要素の大部分は耕作地が占めており、現在も耕作が行われていることから、季節によって農耕地や水田の状態に変化が生じる。 </p>
利用の状態	<p> 景観区内には集落が存在しており、地元住民が散策や農耕活動等により、景観区内の圍繞景観を認知するものと考えられ、特に日中の時間帯に圍繞景観を視認する頻度が高いと考えられる。 </p>
眺めの状態	<p> 景観構成要素の大部分を耕作地が占めているため、視野範囲は広く、ハナノキ群生地の樹林、岩屋堂観音が視認され、遠方には一部恵那山が眺望できることから、見通しは良い。 </p>



4：岩屋堂地区の調査地点（計画路線西側）から、計画路線方向を臨む

[撮影日：平成 29 年 1 月 19 日]

対象道路が通過すると想定される位置：.....

表 6.11-9(5) 景観区の状況（5：千旦林地区）

場の状態	<p> 圍繞景観を構成する地学要素としては、遠方に笠置山が眺望できる。人文要素としては水田や農耕地、集落が存在している。また、景観区内は水辺・水田環境が存在しており、現地調査の結果、動物ではトノサマガエル等の両生類が確認され、植物は東海丘陵要素植物であるハナノキ、シデコブシや水田環境に生育する重要種が確認されている。 景観構成要素の大部分は耕作地が占めており、現在も耕作が行われていることから、季節によって農耕地や水田の状態に変化が生じる。 </p>
利用の状態	<p> 景観区内には集落が存在しており、地元住民が散策や農耕活動等により、景観区内の圍繞景観を認知するものと考えられ、特に日中の時間帯に圍繞景観を視認する頻度が高いと考えられる。 </p>
眺めの状態	<p> 景観構成要素の大部分を耕作地が占めているため、視野範囲は広く、遠方には笠置山が眺望できることから、見通しは良い。 </p>
	
<p>5：千旦林地区の調査地点（計画路線東側）から、計画路線方向を臨む</p>	
<p>[撮影日：平成 29 年 1 月 19 日]</p>	

対象道路が通過すると想定される位置：

表 6.11-9(6) 景観区の状況（6：千旦林地区）

場の状態	<p> 圍繞景観を構成する地学要素としては、遠方に恵那山が眺望できる。人文要素としては水田や農耕地、集落が存在している。また、景観区内は水辺・水田環境が存在しており、現地調査の結果、動物ではトノサマガエル等の両生類が確認され、植物は東海丘陵要素植物であるハナノキ、シデコブシ等や水田環境に生育する重要種が確認されている。 景観構成要素の大部分は耕作地が占めており、現在も耕作が行われていることから、季節によって農耕地や水田の状態に変化が生じる。 </p>
利用の状態	<p> 景観区内には集落が存在しており、地元住民が散策や農耕活動等により、景観区内の圍繞景観を認知するものと考えられ、特に日中の時間帯に圍繞景観を視認する頻度が高いと考えられる。 </p>
眺めの状態	<p> 景観構成要素の大部分を水田・耕作地が占めているため、視野範囲は広く、遠方には恵那山が眺望でき、見通しは良い。 </p>



6：千旦林地区の調査地点（計画路線西側）から、計画路線方向を臨む

[撮影日：平成 29 年 1 月 19 日]

対象道路が通過すると想定される位置：.....

表 6.11-9(7) 景観区の状況（7：千旦林南地区）

場の状態	<p> 圍繞景観を構成する地学要素としては、遠方に恵那山が眺望できる。人文要素としては水田や耕作地、集落やバイパス（三津屋跨線橋）が存在している。また、景観区内には水辺・水田環境が存在しており、現地調査の結果、動物ではトノサマガエルやナゴヤダルマガエル等の両生類が確認され、植物は湿地環境に生育する重要種が確認されている。 景観構成要素の大部分は耕作地が占めており、現在も耕作が行われていることから、季節によって農耕地や水田の状態に変化が生じる。 </p>
利用の状態	<p> 景観区内には集落が存在しており、地元住民が散策や農耕活動等により、景観区内の圍繞景観を認知するものと考えられ、特に日中の時間帯に圍繞景観を視認する頻度が高いと考えられる。 </p>
眺めの状態	<p> 景観構成要素の大部分を耕作地が占めているため、視野範囲は広く、遠方には笠置山が眺望できることから、見通しは良い。 </p>



7：千旦林南地区の調査地点（計画路線西側）から、計画路線方向を臨む

[撮影日：平成 29 年 1 月 19 日]

対象道路が通過すると想定される位置：.....

表 6.11-9(8) 景観区の状況(8:千旦林南地区)

場の状態	<p> 圍繞景観を構成する地学要素としては、遠方に笠置山が眺望できる。人文要素としては水田や農耕地、集落やバイパス(三津屋跨線橋)が存在している。また、景観区内には水辺・水田環境が存在しており、現地調査の結果、動物ではトノサマガエル等の両生類が確認され、植物は湿地環境に生育する重要種の群生地が確認されている。 景観構成要素の大部分は耕作地が占めており、現在も耕作が行われていることから、季節によって農耕地や水田の状態に変化が生じる。 </p>
利用の状態	<p> 景観区内には集落が存在しており、地元住民が散策や農耕活動等により、景観区内の圍繞景観を認知するものと考えられ、特に日中の時間帯に圍繞景観を視認する頻度が高いと考えられる。 </p>
眺めの状態	<p> 景観構成要素の大部分を耕作地が占めているため、視野範囲は広く、遠方には笠置山が眺望できることから、見通しは良い。 </p>
	
<p>8:千旦林南地区の調査地点(計画路線東側)から、計画路線方向を臨む</p>	
<p>[撮影日:平成29年1月19日]</p>	

対象道路が通過すると想定される位置:.....

表 6.11-9(9) 景観区の状況（9：坂本川地区）

場の状態	<p> 困繞景観を構成する地学要素としては、遠方に恵那山が眺望できる。人文要素としては水田や農耕地、集落が存在している。また、景観区内には河川（坂本川）も存在しており、現地調査の結果、坂本川では重要種2種の魚類が確認され、農耕地ではトノサマガエル等の生息が確認されている。現在も耕作は行われていることから、季節によって農耕地の状態に変化が生じるとともに、河川植生にも季節的な変化が生じる。 </p>
利用の状態	<p> 景観区内には集落が存在しており、地元住民が散策や農耕活動等により、景観区内の困繞景観を認知するものと考えられ、特に日中の時間帯に困繞景観を視認する頻度が高いと考えられる。 </p>
眺めの状態	<p> 景観構成要素の大部分を耕作地と河川環境が占めているため、視野範囲は広く、集落が点在するものの、遠方には恵那山が眺望できることから、見通しは良い。 </p>



9：坂本川地区の調査地点（計画路線西側）から、計画路線方向を臨む

[撮影日：平成29年1月19日]

対象道路が通過すると想定される位置：.....

表 6.11-9(10) 景観区の状況（10：坂本川地区）

場の状態	<p> 困繞景観を構成する地学要素としては、遠方に笠置山が眺望できる。人文要素としては水田や農耕地、集落が存在している。また、景観区内には河川（坂本川）、水辺・水田環境が存在しており、現地調査の結果、坂本川では重要種2種の魚類が確認され、農耕地ではトノサマガエル等の両生類の生息が確認されている。現在も耕作が行われていることから、季節によって農耕地や水田の状態に変化が生じる。 </p>
利用の状態	<p> 景観区内には集落が存在しており、地元住民が散策や農耕活動等により、景観区内の困繞景観を認知するものと考えられ、特に日中の時間帯に困繞景観を視認する頻度が高いと考えられる。 </p>
眺めの状態	<p> 景観構成要素の大部分を耕作地と河川環境が占めているため、視野範囲は広く、集落が点在するものの、遠方には笠置山が眺望できることから、見通しは良い。 </p>



10：坂本川地区の調査地点（計画路線東側）から、計画路線方向を臨む

[撮影日：平成29年1月19日]

対象道路が通過すると想定される位置：.....

表 6.11-9(11) 景観区の状況（11：坂本地区）

場の状態	<p> 圍繞景観を構成する地学要素としては、遠方に笠置山が眺望できる。人文要素としては市街地内の人家や工場、一部耕作地が存在している。眺望地点から視認される景観構成要素の大半が既に人為的な改変を受けているが、耕作地ではトノサマガエル属の一種や湿地に生育する重要種の生育が確認されている。現在も耕作は行われていることから、季節によって耕作地の状態に変化が生じる。 </p>
利用の状態	<p> 市街地の地元住民が日常生活を送る中で、景観区内の圍繞景観を認知するものと考えられ、主に日中の時間帯に圍繞景観を視認する頻度が高いと考えられる。 </p>
眺めの状態	<p> 景観構成要素の大部分を市街地の人家や工場等の建物が占めているため、視野範囲は比較的狭く、遠方には笠置山が眺望できるものの、見通しはあまり良くない。 </p>



11：坂本地区の調査地点（計画路線東側）から、計画路線方向を臨む

[撮影日：平成29年1月19日]

対象道路が通過すると想定される位置：.....

表 6.11-9(12) 景観区の状況（12：坂本地区）

場の状態	<p> 圍繞景観を構成する地学要素としては、遠方に恵那山が眺望できる。人文要素としては市街地内の人家や工場、一部耕作地が存在している。眺望地点から視認される景観構成要素の大半が既に人為的な改変を受けているが、耕作地ではトノサマガエル等の両生類や湿地に生育する重要種が確認されている。現在も耕作は行われていることから、季節によって耕作地の状態に変化が生じる。 </p>
利用の状態	<p> 市街地の地元住民が日常生活を送る中で、景観区内の圍繞景観を認知するものと考えられ、主に日中の時間帯に圍繞景観を視認する頻度が高いと考えられる。 </p>
眺めの状態	<p> 景観構成要素の大部分を市街地の人家や工場等の建物が占めているため、視野範囲は比較的狭く、遠方には恵那山が眺望できるものの、見通しはあまり良くない。 </p>



12：坂本地区の調査地点（計画路線西側）から、計画路線方向を臨む

[撮影日：平成29年1月19日]

対象道路が通過すると想定される位置：.....

② 圍繞景観の価値の把握

環境庁の「自然環境のアセスメント技術（平成12年）」による圍繞景観の予測手法に従い、景観区毎の圍繞景観について、価値軸及び認識項目を把握した。

圍繞景観の価値軸と代表的な認識項目を表 6.11-10 表 に示し、景観区ごとの価値の状況を表 6.11-11 (1)～(6)に示す。

表 6.11-10 圍繞景観の価値軸と認識項目の分類

価値軸	価値軸の定義	代表的な認識項目
普遍価値	誰しものが普遍的に共有しているような価値軸	多様性、自然性、傑出性、視認性、利用性、快適性
固有価値	特定の地域や特定の主体に固有な価値軸	固有性、歴史性、郷土性、減少性、親近性

表 6.11-11(1) 圍繞景観の価値の状況（千旦林北地区）

No.	価値軸	認識項目	価値の状況
1	普遍価値	自然性	耕作放棄地や草地、樹林地が分布し、樹林地ではギフチョウの卵塊が確認されている。 集落の人家が一部存在しているが、景観構成要素の大半は耕作地、草地であるため、人工物の圧迫感は感じられない。
		視認性	当該地域の景観を代表する笠置山が眺望できるため、景観区内の集落に居住する地元住民に視認される。
		利用性	景観区内の集落の地元住民が水田や農耕地で耕作している他、散策等にも利用されている。
	固有価値	郷土性	当該地域の景観を代表する笠置山が眺望できる環境の下、集落の地元住民により耕作活動が営まれており、地域住民の生活文化との関わりがある場所である。
2	普遍価値	自然性	耕作地、樹林、河川（茶臼川）が分布し、樹林地ではギフチョウの卵塊や貧養湿地植物群落等が確認されている。 集落の人家が一部存在しているが、景観構成要素の大半は耕作地、樹林地であるため、空間的な広がりがあり、人工物の圧迫感は感じられない。
		視認性	当該地域の田園環境が眺望できるため、景観区内の集落に居住する地元住民に視認される。
		利用性	景観区内に存在する集落の地元住民が水田や農耕地で耕作している他、散策等にも利用されている。
	固有価値	郷土性	集落の地元住民により耕作活動が営まれており、地域住民の生活文化との関わりがある場所である。

表 6.11-11(2) 圍繞景観の価値の状況（岩屋堂地区）

No.	価値軸	認識項目	価値の状況
3	普遍価値	自然性	耕作地が広く分布し、樹林内には東海丘陵要素植物であるハナノキの群生地が生育している。また、里山・樹林における食物連鎖の上位種であるオオタカ等も生息しており、多様な自然環境が広がっている。集落の人家は点在しているが、空間的な広がりがあり、人工物の圧迫感は感じられない。
		視認性	当該地域の景観を代表する笠置山が眺望できるため、景観区内の集落に居住する地元住民に視認される。
		利用性	景観区内に存在する集落の地元住民が水田や農耕地で耕作をしている他、散策や岩屋堂観音へのアクセス路としても利用されている。
	固有価値	固有性	東濃地域の低湿地に生育する固有種である東海丘陵要素植物のハナノキ群生地が分布する樹林が存在している。
		郷土性	岩屋堂の村落の歴史は深く、約400年以上前から存在している ^{※1} と考えられており、寛文12年（1672年）に建立された ^{※1} と伝えられる岩屋堂観音は、地元住民の文化と関わりも深く、地域のシンボルの1つとなっている。
	4	普遍価値	自然性
視認性			当該地域の景観を代表する恵那山が一部眺望できるため、景観区内の集落に居住する地元住民に視認される。
利用性			景観区内に存在する集落の地元住民が水田や農耕地で耕作をしている他、散策や岩屋堂観音へのアクセス路としても利用されている。
固有価値		固有性	東濃地域の低湿地に生育する固有種である東海丘陵要素植物のハナノキ群生地が分布する樹林が存在している。
		郷土性	岩屋堂の村落の歴史は深く、約400年以上前から存在している ^{※1} と考えられており、寛文12年（1672年）に建立された ^{※1} と伝えられる岩屋堂観音は、地元住民の文化と関わりも深く、地域のシンボルの1つとなっている。

※1) 出典：歴史生態学的視点から見た日本最大のハナノキ自生地の成立要因、およびリニア接続道路がその保全に及ぼす影響（菊池賢（森林総合研究所）（2016））

表 6.11-11(3) 困繞景観の価値の状況（千旦林地区）

No.	価値軸	認識項目	価値の状況
5	普遍価値	自然性	耕作地が広く分布し、水田周辺では重要種1種の植物や東海丘陵要素植物であるハナノキ、シデコブシ等が生育している。また、トノサマガエル等の両生類の生息も確認されている。集落の人家は点在しているが、空間的な広がりがあり、人工物の圧迫感は感じられない。
		視認性	当該地域の景観を代表する笠置山が眺望できるため、景観区内の集落に居住する地元住民に視認される。
		利用性	景観区内に存在する集落の地元住民が水田や農耕地で耕作している他、散策等にも利用されている。
	固有価値	郷土性	当該地域の景観を代表する笠置山が眺望できる環境の下、集落の地元住民により耕作活動が営まれており、地域住民の生活文化との関わりがある場所である。
6	普遍価値	自然性	耕作地が広く分布し、水田周辺では重要種1種の植物や東海丘陵要素植物であるハナノキ、シデコブ等が生育している。また、トノサマガエル等の両生類の生息も確認されている。集落の人家は点在しているが、空間的な広がりがあり、人工物の圧迫感は感じられない。
		視認性	当該地域の景観を代表する恵那山が眺望できるため、景観区内の集落に居住する地元住民に視認される。
		利用性	景観区内に存在する集落の地元住民が水田や農耕地で耕作している他、散策等にも利用されている。
	固有価値	郷土性	当該地域の景観を代表する恵那山が眺望できる環境の下、集落の地元住民により耕作活動が営まれており、地域住民の生活文化との関わりがある場所である。

表 6.11-11(4) 困繞景観の価値の状況（千旦林南地区）

No.	価値軸	認識項目	価値の状況
7	普遍価値	自然性	耕作地が広く分布し、水田周辺では重要種2種の植物が生育し、トノサマガエル等の両生類の生息も確認されている。三津屋跨線橋が南北に渡っているため、人工物の圧迫感が多少感じられるものの、跨線橋の高さは周辺の樹林よりも低いため、地域の代表的な景観である恵那山の眺望は遮らない。
		視認性	当該地域の景観を代表する恵那山が眺望できるため、景観区内の集落に居住する地元住民に視認される。
		利用性	景観区内に存在する集落の地元住民が水田や農耕地で耕作している他、散策等にも利用されている。
	固有価値	郷土性	当該地域の景観を代表する恵那山が眺望できる環境の下、集落の地元住民により耕作活動が営まれており、地域住民の生活文化との関わりがある場所である。
8	普遍価値	自然性	耕作地が広く分布し、水田周辺では重要種1種の群生地やトノサマガエル等の両生類の生息も確認されている。三津屋跨線橋が南北に渡っているため、人工物の圧迫感が多少感じられるものの、跨線橋の高さは周辺の樹林よりも低いため、地域の代表的な景観である笠置山の眺望は遮らない。
		視認性	当該地域の景観を代表する笠置山が眺望できるため、景観区内の集落に居住する地元住民に視認される。
		利用性	景観区内に存在する集落の地元住民が水田や農耕地で耕作している他、散策等にも利用されている。
	固有価値	郷土性	当該地域の景観を代表する笠置山が眺望できる環境の下、集落の地元住民により耕作活動が営まれており、地域住民の生活文化との関わりがある場所である。

表 6.11-11(6) 困繞景観の価値の状況（坂本地区（終点部））

No.	価値軸	認識項目	価値の状況
1 1	普遍価値	視認性	当該地域の景観を代表する笠置山が眺望できるため、景観区内の集落に居住する地元住民に視認される。
		利用性	景観区内の市街地に住む地元住民が、日常生活を送る中で利用している。
	固有価値	郷土性	市街地内から当該地域の景観を代表する笠置山が眺望できる地域であり、地元住民の生活の場として関わりがある場所である。
1 2	普遍価値	自然性	水田や耕作地、坂本川が分布しており、耕作地ではトノサマガエル等の生息や湿地に生育する重要種2種も確認されている。 景観構成要素の大半を市街地が占めており、人家や工場等が密集しているため、遠方には笠置山が眺望できるものの、見通しはあまり良くない。
		視認性	当該地域の景観を代表する恵那山が眺望できるため、景観区内の集落に居住する地元住民に視認される。
		利用性	景観区内の市街地に住む地元住民が、日常生活や耕作活動を行う中で利用している。
	固有価値	郷土性	市街地内から当該地域の景観を代表する笠置山が眺望できる地域であり、地元住民の生活の場として関わりがある場所である。

3. 予測、評価

(1) 土地又は工作物の存在及び供用（道路（地表式、嵩上式）の存在）

1) 予測項目

土地又は工作物の存在及び供用（道路の存在）による景観の構成要素及び主要な眺望景観の変化、圍繞景観の場の改変の程度及び価値の変化に対する環境影響の程度を予測した。予測項目を表 6.11-12、用語の定義を表 6.11-13 に示す。

表 6.11-12 予測項目

予測項目	予測内容
主要な眺望景観	主要な眺望景観の変化
身近な景観 (圍繞景観)	場の改変の程度 圍繞景観の価値の変化

表 6.11-13 用語の定義

主要な眺望景観	・ 主要な眺望点から景観資源を眺望する場合の眺望される景観 [主要な眺望点] 不特定かつ多数のものが利用している景観資源を眺望する場所 [景観資源] 景観として認識される自然的構成要素として位置づけられるもの (山岳、溪谷、河川、滝、海岸、岬、自然現象、里地・里山等)
圍繞景観	・ 身の回りの景観として認知される場

出典) 国土交通省 国土技術政策総合研究所、独立行政法人 土木研究所：道路環境影響評価の技術手法（平成 24 年度版），平成 25 年 3 月

2) 予測の基本的な手法

① 景観の構成要素の改変

主要な展望地点及び景観資源と事業実施区域を重ね合わせ、図上解析することにより、改変の位置、程度を把握した。

② 主要な眺望景観の変化

フォトモンタージュ法により、眺望地からの景観の変化の程度について把握を行う。

3) 圍繞景観の変化

景観区の区分と事業による改変区域を地形図上で重ね合わせることにより、圍繞景観の状態が変化する要素を抽出した上で、直接改変による改変面積率等や景観区の場、利用、眺めの状態の変化から、圍繞景観の変化の程度について把握を行った。

①予測地域及び地点

予測地域及び地点は、現地調査を実施した調査地域及び調査地点とした。予測地点を表 6.11-14 に示す。

表 6.11-14 予測地点

予測地点	概要
主要な眺望景観	中津川市を代表する景観である恵那山、恵那峡を眺望できる3地点（苗木城跡、美乃坂本駅、坂本地区の広域農道）
圍繞景観	当該地域の土地利用状況（集落等）を踏まえ、6地域計12地点を選定（千旦林北地区、岩屋堂地区、千旦林地区、千旦林南地区、坂本川地区、坂本地区）

表 6.11-15 各調査地点における圍繞景観の価値の設定

景観区分	予測地点 No.	普遍価値			固有価値	
		自然性	視認性	利用性	郷土性	固有性
千旦林北地区	1	○	○	○	○	
	2	○	○	○	○	
岩屋堂地区	3	○	○	○	○	○
	4	○	○	○	○	○
千旦林地区	5	○	○	○	○	
	6	○	○	○	○	
千旦林南地区	7	○	○	○	○	
	8	○	○	○	○	
坂本川地区	9	○	○	○	○	
	10	○	○	○	○	
坂本地区 (終点部)	11		○	○	○	
	12	○	○	○	○	

②予測時期

予測の対象時期は、対象道路の完成時とした。



苗木城跡 (2km 北東)



苗木城跡からの恵那峡の眺望

坂本地区の広域農道からの恵那山



写真撮影方向

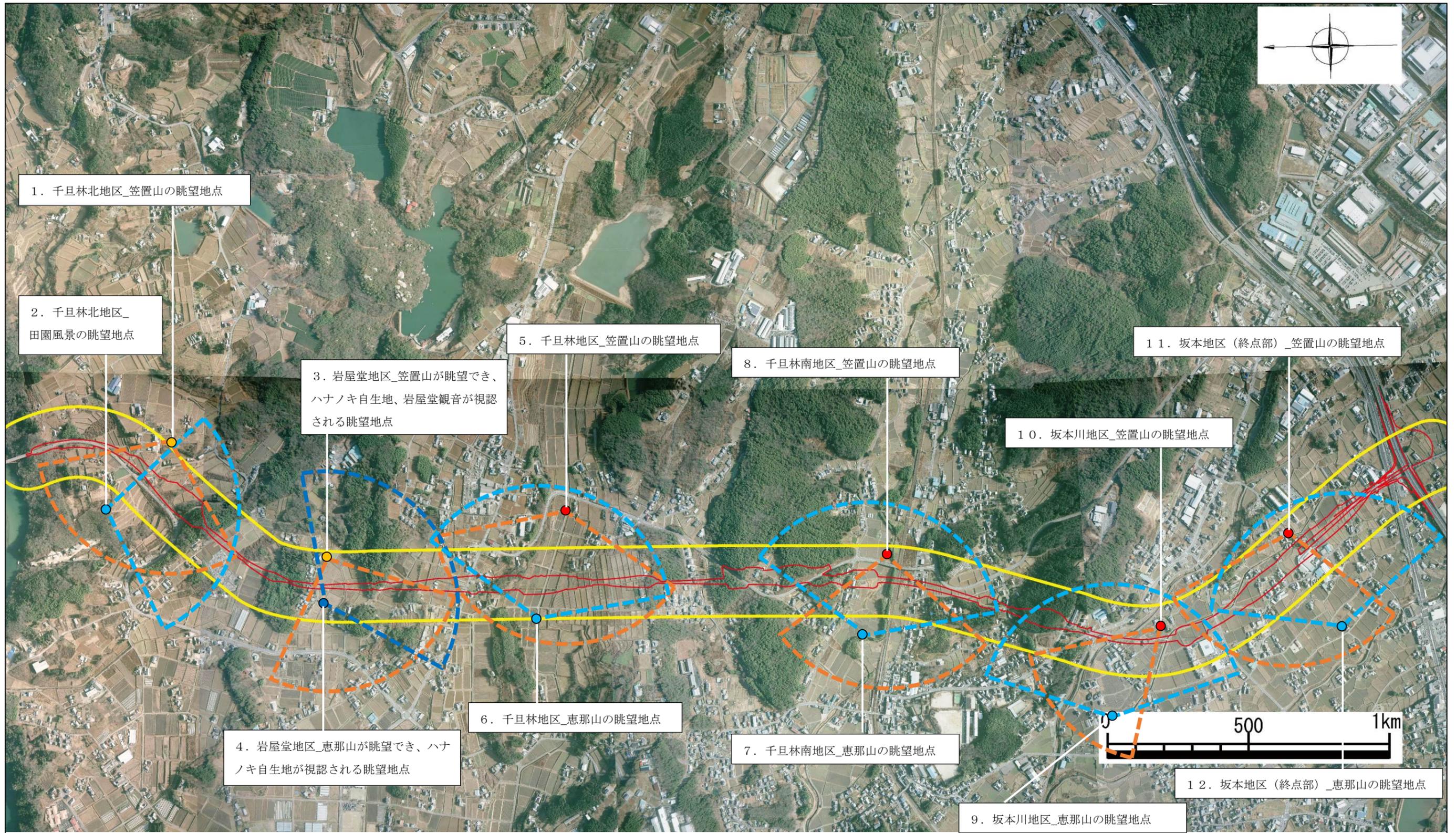


図 6.11-4 予測地点位置図(困繞景観)

(2) 予測結果

1) 主要な眺望景観

A. 景観の構成要素の改変

対象道路は、景観資源である「恵那山」、「恵那峡」を直接改変しないため、事業実施による景観の構成要素の改変はない。

B. 主要な眺望景観の変化

土地又は工作物の存在及び供用による景観の予測結果を図 6.11-5～図 6.11-10 に示す。

a. 苗木城跡

対象道路は苗木城跡から約 2.5km 南西方向を切土構造で通過するため、展望地点の直接改変はない。また、対象道路の盛土区間と平面道路がわずかに眺望されるが、眺望景観に占める割合は小さいと想定される。さらに、山々により形成されるスカイラインを切断することはない。

以上により、苗木城跡からの展望景観に及ぼす影響は小さいと予測される。

b. JR 美乃坂本駅

対象道路は JR 美乃坂本駅から約 500m 東側を高架構造で通過するため、展望地点の直接改変はない。また、眺望地点からは対象道路の高架区間が南北方向に眺望されるが、JR 美乃坂本駅より北側の高架道路の大半は樹林で隠れ、JR 美乃坂本駅より南側は三津屋跨線橋が南北に渡る位置に重なるように対象道路が予定されているため、眺望地点からの景観の大きな変化はないものと想定される。さらに、山々により形成されるスカイラインを切断することはない。

以上により、JR 美乃坂本駅からの展望景観に及ぼす影響は小さいと予測される。

c. 坂本地区の広域農道

対象道路は坂本地区の広域農道から約 660m 東側を盛土構造で通過するため、展望地点の直接改変はない。また、対象道路の盛土区間がわずかに眺望されるが、眺望景観に占める割合は小さいと想定される。さらに、山々により形成されるスカイラインを切断することはない。

以上により、坂本地区の広域農道からの展望景観に及ぼす影響は小さいと予測される。

■苗木城跡



現況



供用後

図 6.11-5(1) 主要な眺望景観の予測結果（苗木城跡：春季）



現況



供用後

図 6.11-5(2) 主要な眺望景観の予測結果 (苗木城跡：夏季)



現況

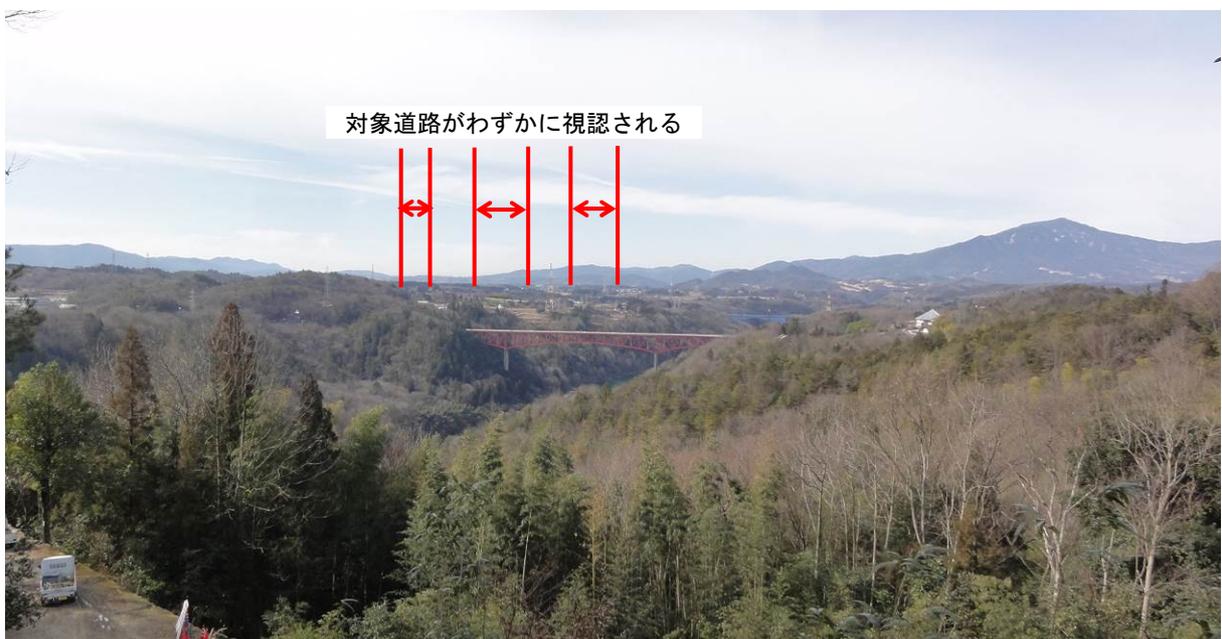


供用後

図 6.11-5(3) 主要な眺望景観の予測結果（苗木城跡：秋季）



現況



供用後

図 6.11-5(4) 主要な眺望景観の予測結果 (苗木城跡：冬季)

■JR 美乃坂本駅



現況

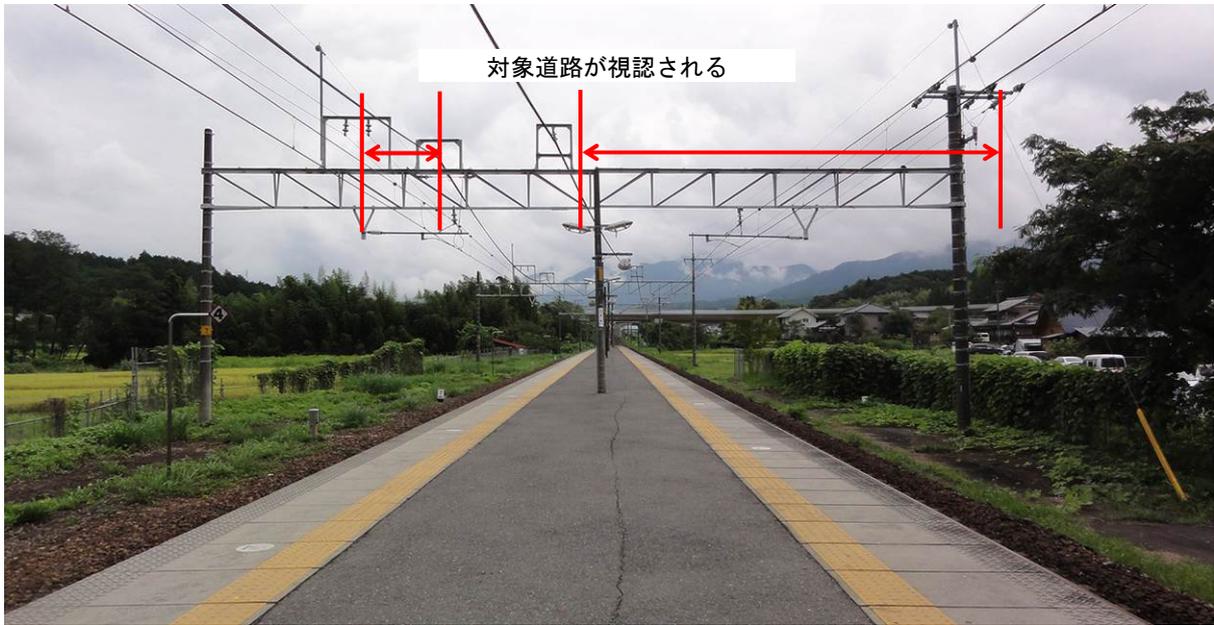


供用後

図 6.11-6(1) 主要な眺望景観の予測結果 (JR 美乃坂本駅：春季)



現況



供用後

図 6.11-6(2) 主要な眺望景観の予測結果 (JR 美乃坂本駅：夏季)



現況



供用後

図 6.11-6(3) 主要な眺望景観の予測結果 (JR 美乃坂本駅：秋季)



現況



供用後

図 6.11-6(4) 主要な眺望景観の予測結果 (JR 美乃坂本駅：冬季)

■坂本地区の広域農道



現況



供用後

図 6.11-7(1) 主要な眺望景観の予測結果 (坂本地区の広域農道：春季)



現況



供用後

図 6.11-7(2) 主要な眺望景観の予測結果（坂本地区の広域農道：夏季）



現況



供用後

図 6.11-7(3) 主要な眺望景観の予測結果（坂本地区の広域農道：秋季）



現況



供用後

図 6.11-7(4) 主要な眺望景観の予測結果（坂本地区の広域農道：冬季）

C. 参考資料

参考資料として、主要な眺望地点から視認される範囲を着色した。

なお、JR 美乃坂本駅のみ、主要な眺望地点から視認されない範囲を黄色線で着色した。

a. 苗木城跡



供用後

図 6.11-8(1) 主要な眺望景観から視認される範囲（苗木城跡：春季）



供用後

図 6.11-8(2) 主要な眺望景観から視認される範囲（苗木城跡：夏季）



供用後

図 6.11-8(3) 主要な眺望景観から視認される範囲（苗木城跡：秋季）



供用後

図 6.11-8(4) 主要な眺望景観から視認される範囲（苗木城跡：冬季）

b. JR 美乃坂本駅



供用後

図 6.11-9(1) 主要な眺望景観から視認される範囲（JR 美乃坂本駅：春季）



供用後

図 6.11-9(2) 主要な眺望景観から視認される範囲（JR 美乃坂本駅：夏季）



供用後

図 6.11-9(3) 主要な眺望景観から視認される範囲（JR 美乃坂本駅：秋季）



供用後

図 6.11-9(4) 主要な眺望景観から視認される範囲（JR 美乃坂本駅：冬季）

c. 坂本地区の広域農道



供用後

図 6.11-10(1) 主要な眺望景観から視認されない範囲（坂本地区の広域農道：春季）



供用後

図 6.11-10(2) 主要な眺望景観から視認されない範囲（坂本地区の広域農道：夏季）



供用後

図 6.11-10(3) 主要な眺望景観から視認されない範囲（坂本地区の広域農道：秋季）



供用後

図 6.11-10(4) 主要な眺望景観から視認されない範囲（坂本地区の広域農道：冬季）

2) 圍繞景観の状況

A. 場の改変の程度

圍繞景観を構成する基盤環境の改変の状況は、表 6.11-16 に示すとおりである。

表 6.11-16(1) 基盤環境の改変の状況（予測地点1：千旦林北地区_笠置山の眺望地点）

植生タイプ	No.	相観植生単位	予測地域 全体面積 (ha)	対象事業による改変面積	
				改変面積 (ha)	改変率 (%)
森林植生	3	アバマキ-コナラ群集	2.14	0.48	22.4
	6	モウソウチク・マダケ群落	0.88	0.09	10.2
	7	スギ・ヒノキ植林	4.65	0.41	8.8
	森林植生の合計			7.67	0.98
草本植生	12	伐採跡地群落	0.38	-	-
	13	クズ群落	1.20	0.27	22.5
	草本植生の合計			1.58	0.27
耕作地植生	14	放棄畑雑草群落	0.71	-	-
	15	放棄水田雑草群落	1.49	-	-
	19	果樹園	1.77	0.63	35.6
	20	畑	0.86	0.005	0.6
	21	水田	2.52	0.29	11.5
	耕作地植生の合計			7.35	0.925
その他	15	路傍・空地雑草群落	0.30	-	-
	22	公園・墓地等	0.27	-	-
	23	造成地・グラウンド	0.28	0.05	17.9
	24	市街地	2.53	0.04	1.6
	25	開放水域	0.24	-	-
その他合計			3.62	0.09	2.5
合計			20.22	2.27	11.2

表 6.11-16(2) 基盤環境の改変の状況（予測地点2：千旦林北地区_田園風景の眺望地点）

植生タイプ	No.	相観植生単位	予測地域 全体面積 (ha)	対象事業による改変面積	
				改変面積 (ha)	改変率 (%)
森林植生	1	ハナノキ群落	0.01	-	-
	3	アバマキ-コナラ群集	2.91	0.48	16.5
	6	モウソウチク・マダケ群落	1.40	0.10	7.1
	7	スギ・ヒノキ植林	3.37	0.41	12.2
	森林植生の合計			7.69	0.99
草本植生	9	貧養地小型植物群落	0.03	-	-
	13	クズ群落	1.23	0.27	22.0
	草本植生の合計			1.26	0.27
耕作地植生	14	放棄畑雑草群落	0.55	-	-
	16	放棄水田雑草群落	0.95	-	-
	19	果樹園	1.08	0.37	34.3
	20	畑	1.37	0.05	3.6
	21	水田	4.75	0.35	7.4
	耕作地植生の合計			8.70	0.77
その他	15	路傍・空地雑草群落	0.36	-	-
	22	公園・墓地等	0.40	-	-
	23	造成地・グラウンド	0.27	0.05	18.5
	24	市街地	1.71	0.02	1.2
	25	開放水域	0.09	-	-
その他合計			2.83	0.07	2.5
合計			20.48	2.10	10.3

表 6.11-16(3) 基盤環境の改変の状況（予測地点3：岩屋堂地区_笠置山が眺望でき、ハナノキ自生地、岩屋堂観音が視認される眺望地点）

植生タイプ	No.	相観植生単位	予測地域 全体面積 (ha)	対象事業による改変面積	
				改変面積 (ha)	改変率 (%)
森林植生	3	アベマキ-コナラ群集	0.29	—	—
	6	モウソウチク・マダケ群落	0.18	—	—
	7	スギ・ヒノキ植林	2.09	0.12	5.7
	森林植生の合計		2.56	0.12	4.7
耕作地植生	14	放棄畑雑草群落	0.29	—	—
	16	放棄水田雑草群落	0.55	—	—
	19	果樹園	0.09	—	—
	20	畑	2.30	0.05	2.2
	21	水田	6.24	0.29	4.6
	耕作地植生の合計		9.47	0.34	3.6
その他	15	路傍・空地雑草群落	1.38	—	—
	24	市街地	3.95	—	—
	25	開放水域	0.12	—	—
	その他合計		5.45		
合計			17.48	0.46	2.6

表 6.11-16 (4) 基盤環境の改変の状況（予測地点4：岩屋堂地区_恵那山が眺望でき、ハナノキ自生地が視認される眺望地点）

植生タイプ	No.	相観植生単位	予測地域 全体面積 (ha)	対象事業による改変面積	
				改変面積 (ha)	改変率 (%)
森林植生	1	ハナノキ群落	0.05	—	—
	26	シデコブシ群落	0.01	—	—
	3	アベマキ-コナラ群集	0.30	—	—
	6	モウソウチク・マダケ群落	0.41	—	—
	7	スギ・ヒノキ植林	6.73	0.18	2.7
	8	ノリウツギ群落	0.13	—	—
	森林植生の合計		7.63	0.18	2.4
草本植生	12	伐採跡地群落	1.03	—	—
	17	浮葉植物群落	0.13	0.03	23.1
	18	セイタカアワダチソウ群落	0.07	—	—
	草本植生の合計		1.23	0.03	2.4
耕作地植生	14	放棄畑雑草群落	0.81	—	—
	16	放棄水田雑草群落	0.32	—	—
	19	果樹園	0.04	—	—
	20	畑	3.70	0.32	8.6
	21	水田	4.50	0.76	16.9
	耕作地植生の合計		9.37	1.08	11.5
その他	15	路傍・空地雑草群落	0.95	—	—
	24	市街地	3.36	0.02	0.5
	25	開放水域	0.96	0.005	0.5
	その他合計		5.27	0.02	0.4
合計			23.50	1.31	5.6

表 6.11-16(5) 基盤環境の改変の状況（予測地点5：千旦林地区_笠置山の眺望地点）

植生タイプ	No.	相観植生単位	予測地域 全体面積 (ha)	対象事業による改変面積	
				改変面積 (ha)	改変率 (%)
森林植生	3	アベマキ-コナラ群集	1.86	0.64	34.4
	5	モチツツジ-アカマツ群集	0.12	—	—
	6	モウソウチク・マダケ群落	0.11	—	—
	7	スギ・ヒノキ植林	0.75	0.12	16.0
	森林植生の合計			2.84	0.76
草本植生	10	ガマ群落	0.54	—	—
	12	伐採跡地群落	0.38	—	—
	13	クズ群落	0.09	—	—
	18	セイタカアワダチソウ群落	0.86	0.17	19.8
	草本植生の合計			1.87	0.17
耕作地植生	14	放棄畑雑草群落	1.44	0.13	9.0
	16	放棄水田雑草群落	0.41	0.09	22.0
	19	果樹園	0.98	0.16	16.3
	20	畑	3.01	0.37	12.3
	21	水田	7.56	0.81	10.7
	耕作地植生の合計			13.40	1.56
その他	15	路傍・空地雑草群落	0.16	—	—
	24	市街地	4.57	0.38	8.3
	25	開放水域	0.08	0.01	12.5
	その他合計			4.81	0.39
合計			22.92	2.88	12.6

表 6.11-16(6) 基盤環境の改変の状況（予測地点6：千旦林地区_恵那山の眺望地点）

植生タイプ	No.	相観植生単位	予測地域 全体面積 (ha)	対象事業による改変面積	
				改変面積 (ha)	改変率 (%)
森林植生	3	アベマキ-コナラ群集	2.49	0.66	26.5
	5	モチツツジ-アカマツ群集	0.05	—	—
	6	モウソウチク・マダケ群落	0.30	—	—
	7	スギ・ヒノキ植林	0.84	0.13	15.5
	森林植生の合計			3.68	0.79
草本植生	10	ガマ群落	0.11	—	—
	12	伐採跡地群落	0.36	—	—
	13	クズ群落	0.10	—	—
	18	セイタカアワダチソウ群落	0.71	0.17	23.9
	草本植生の合計			1.28	0.17
耕作地植生	14	放棄畑雑草群落	1.13	0.10	8.8
	16	放棄水田雑草群落	0.31	0.09	29.0
	19	果樹園	0.89	0.16	18.0
	20	畑	2.78	0.01	0.4
	21	水田	6.55	0.81	12.4
	耕作地植生の合計			11.66	1.17
その他	15	路傍・空地雑草群落	0.28	—	—
	24	市街地	5.98	0.26	4.3
	25	開放水域	0.09	0.01	11.1
	その他合計			6.35	0.27
合計			22.97	2.40	10.4

表 6.11-16(7) 基盤環境の改変の状況（予測地点7：千旦林南地区_恵那山の眺望地点）

植生タイプ	No.	相観植生単位	予測地域 全体面積 (ha)	対象事業による改変面積	
				改変面積 (ha)	改変率 (%)
森林植生	3	アベマキ-コナラ群集	0.64	0.004	0.6
	6	モウソウチク・マダケ群落	1.22	0.05	4.1
	7	スギ・ヒノキ植林	7.56	1.09	14.4
	森林植生の合計			9.42	1.144
草本植生	12	伐採跡地群落	0.02	0.001	5.0
	13	クズ群落	1.32	0.19	14.4
	18	セイタカアワダチソウ群落	0.89	0.04	4.5
	草本植生の合計			2.23	0.231
耕作地植生	14	放棄畑雑草群落	0.28	0.09	32.1
	19	果樹園	0.96	0.08	8.3
	20	畑	1.14	—	—
	21	水田	5.09	0.91	17.9
	耕作地植生の合計			7.47	1.08
その他	15	路傍・空地雑草群落	0.03	—	—
	22	公園・墓地等	0.30	—	—
	24	市街地	3.37	0.26	7.7
	25	開放水域	0.47	0.02	4.3
	その他合計			4.17	0.28
合計			23.29	2.74	11.7

表 6.11-16(8) 基盤環境の改変の状況（予測地点8：千旦林南地区_笠置山の眺望地点）

植生タイプ	No.	相観植生単位	予測地域 全体面積 (ha)	対象事業による改変面積	
				改変面積 (ha)	改変率 (%)
森林植生	3	アベマキ-コナラ群集	0.85	0.004	0.5
	6	モウソウチク・マダケ群落	0.88	0.03	3.4
	7	スギ・ヒノキ植林	2.61	0.22	8.4
	森林植生の合計			4.34	0.254
草本植生	13	クズ群落	0.99	0.19	19.2
	18	セイタカアワダチソウ群落	0.89	0.04	4.5
	草本植生の合計			1.88	0.23
耕作地植生	14	放棄畑雑草群落	0.24	0.09	37.5
	16	放棄水田雑草群落	0.31	—	—
	19	果樹園	0.48	0.01	2.1
	20	畑	1.17	—	—
	21	水田	4.49	0.54	12.0
耕作地植生の合計			6.69	0.64	9.6
その他	15	路傍・空地雑草群落	0.08	—	—
	24	市街地	3.75	0.26	6.9
	25	開放水域	0.40	0.01	2.5
	その他合計			4.23	0.27
合計			17.14	1.39	8.1

表 6.11-16(9) 基盤環境の改変の状況（予測地点 9：坂本川地区_恵那山の眺望地点）

植生タイプ	No.	相観植生単位	予測地域 全体面積 (ha)	対象事業による改変面積	
				改変面積 (ha)	改変率 (%)
森林植生	3	アベマキ-コナラ群集	0.31	—	—
	6	モウソウチク・マダケ群落	0.84	—	—
	7	スギ・ヒノキ植林	3.94	0.57	14.5
	森林植生の合計		5.09	0.57	11.2
草本植生	11	ツルヨシ群集	0.14	—	—
	12	伐採跡地群落	0.02	—	—
	13	クズ群落	0.47	0.004	0.9
	18	セイタカアワダチソウ群落	0.84	0.03	3.6
	草本植生の合計		1.47	0.034	2.3
耕作地植生	14	放棄畑雑草群落	0.02	—	—
	20	畑	1.26	0.05	4.0
	21	水田	7.02	0.55	7.8
	耕作地植生の合計		8.3	0.60	7.2
その他	15	路傍・空地雑草群落	0.38	0.01	2.6
	24	市街地	8.16	0.40	4.9
	25	開放水域	0.47	0.05	10.6
	その他合計		9.01	0.46	5.1
合計			23.87	1.66	7.0

表 6.11-16(10) 基盤環境の改変の状況（予測地点 10：坂本川地区_笠置山の眺望地点）

植生タイプ	No.	相観植生単位	予測地域 全体面積 (ha)	対象事業による改変面積	
				改変面積 (ha)	改変率 (%)
森林植生	3	アベマキ-コナラ群集	0.14	—	—
	6	モウソウチク・マダケ群落	0.56	—	—
	7	スギ・ヒノキ植林	0.73	—	—
	森林植生の合計		1.43		
草本植生	11	ツルヨシ群集	0.02	—	—
	12	伐採跡地群落	0.02	—	—
	13	クズ群落	0.02	—	—
	18	セイタカアワダチソウ群落	0.46	—	—
	草本植生の合計		0.52		
耕作地植生	14	放棄畑雑草群落	0.01	—	—
	20	畑	0.38	—	—
	21	水田	5.49	0.03	0.5
	耕作地植生の合計		5.88	0.03	0.5
その他	15	路傍・空地雑草群落	0.13	—	—
	24	市街地	2.91	0.001	0.0
	25	開放水域	0.34	—	—
	その他合計		3.38	0.001	0.03
合計			11.21	0.03	0.28

表 6.11-16(11) 基盤環境の改変の状況（予測地点 1 1：坂本地区_笠置山の眺望地点）

植生タイプ	No.	相観植生単位	予測地域 全体面積 (ha)	対象事業による改変面積	
				改変面積 (ha)	改変率 (%)
森林植生	6	モウソウチク・マダケ群落	0.03	—	—
	7	スギ・ヒノキ植林	0.26	—	—
	森林植生の合計		0.29		
草本植生	12	伐採跡地群落	0.09	—	—
	13	クズ群落	0.08	—	—
	18	セイタカアワダチソウ群落	0.01	—	—
	草本植生の合計		0.18		
耕作地植生	14	放棄畑雑草群落	0.06	0.00035	0.6
	19	果樹園	0.02	—	—
	20	畑	1.44	0.27	18.8
	21	水田	11.16	1.39	12.5
	耕作地植生の合計		12.68	1.66	13.1
その他	15	路傍・空地雑草群落	0.46	0.014	3.0
	22	公園・墓地等	0.08	—	—
	24	市街地	6.5	0.67	10.3
	25	開放水域	0.13	0.10	76.9
	その他合計		7.17	0.784	10.9
合計			20.32	2.44	12.0

表 6.11-16(12) 基盤環境の改変の状況（予測地点 1 2：坂本地区_恵那山の眺望地点）

植生タイプ	No.	相観植生単位	予測地域 全体面積 (ha)	対象事業による改変面積	
				改変面積 (ha)	改変率 (%)
森林植生	6	モウソウチク・マダケ群落	0.001	—	—
	7	スギ・ヒノキ植林	0.48	—	—
	森林植生の合計		0.48		
草本植生	10	ガマ群落	0.06	—	—
	12	伐採跡地群落	0.06	—	—
	18	セイタカアワダチソウ群落	0.15	—	—
	草本植生の合計		0.27		
耕作地植生	14	放棄畑雑草群落	0.42	0.02	4.8
	19	果樹園	0.01	—	—
	20	畑	1.43	0.27	18.9
	21	水田	7.81	1.88	24.1
	耕作地植生の合計		9.67	2.17	22.4
その他	15	路傍・空地雑草群落	0.5	0.14	28.0
	22	公園・墓地等	0.22	—	—
	23	造成地・グラウンド	0.3		
	24	市街地	10.62	0.98	9.2
	25	開放水域	0.15	0.11	73.3
	その他合計		11.79	1.23	10.4
合計			22.21	3.40	15.3

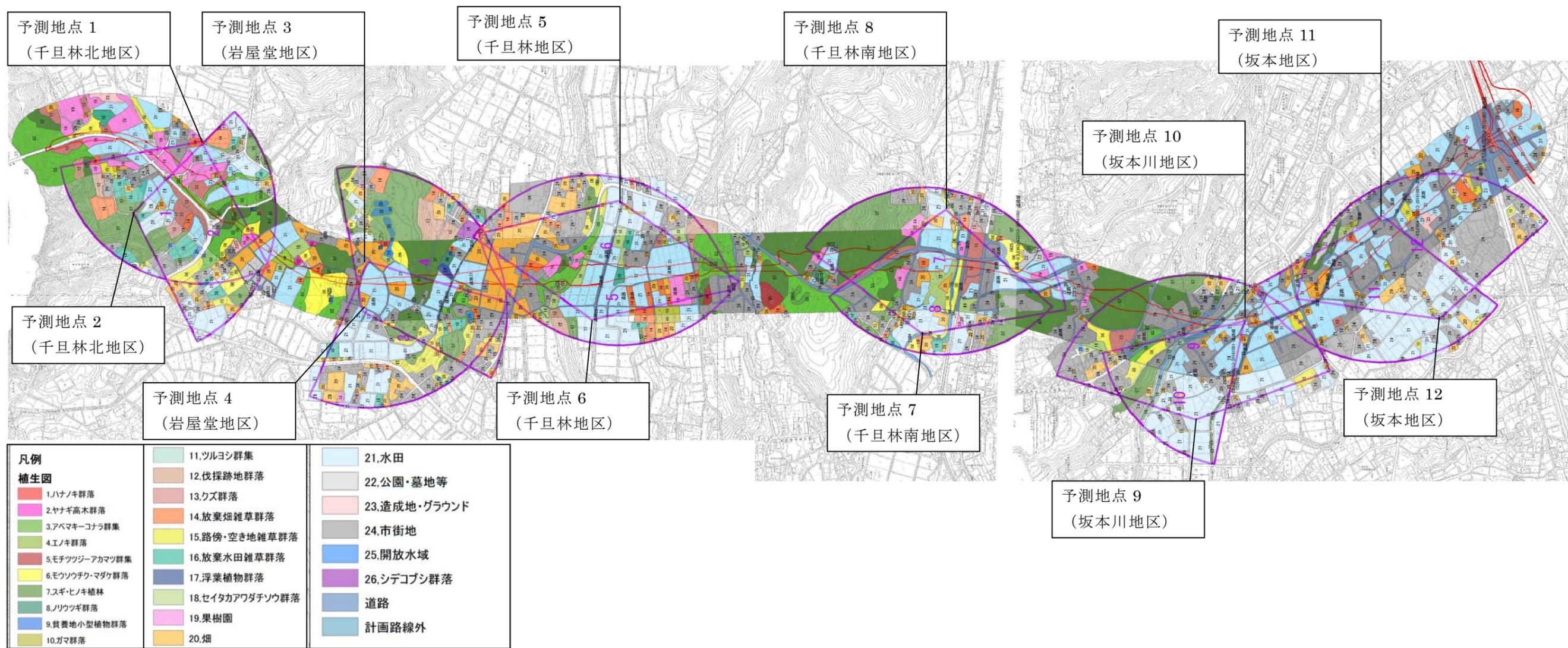


図 6.11-11 圍繞景観の景観区内における基盤環境（植生）図

B. 圏繞景観の価値の変化

圏繞景観の価値の変化については、表 6.11-17 に示すとおりである。

予測の結果、土地又は工作物の存在及び供用により、岩屋堂地区の予測地点 3、4 について、自然性、固有性、郷土性が変化すると考えられる。

表 6.11-17(1) 圏繞景観の価値の変化（千旦林北地区）

No.	価値軸	認識項目	価値の状況
1	普遍価値	自然性	土地又は工作物の存在及び供用により、景観区内における基盤環境のうち、代表的なものでは、果樹園が 35.6%、クズ群落が 22.5%、アベマキ-コナラ群集が 22.4%、スギ-ヒノキ植林が 8.8% 消失する。景観区内には植生自然度の高い植生は存在しておらず、ギフチョウの卵塊が確認されているスギ-ヒノキ植林の消失割合についても 8.8% と低いため、自然性の価値の変化は小さいものと考えられる。
		視認性	土地又は工作物の存在及び供用により、事業実施区域周辺の一部では笠置山を眺望する視野範囲内に対象道路が視認される可能性があるが、眺望景観に占める割合は小さいと想定され、山々により形成されるスカイラインを横断しないため、視認性の価値の変化は小さいと考えられる。
		利用性	土地又は工作物の存在及び供用により、水田や畑が消失するため、一部の場所で農耕活動への影響が生じるが、その消失割合は水田が 11.5%、畑が 0.6% と低いため、利用性の価値の変化は小さいと考えられる。
	固有価値	郷土性	土地又は工作物の存在及び供用により、郷土性に変化が生じる可能性があるが、景観区内における改変面積の割合は 11.2% であり、当該地域の主要な景観構成要素であるスギ・ヒノキ植林の消失割合は 8.8% であるため、郷土性が失われるほど景観が大きく変化することはないことから、郷土性の価値の変化は小さいものと考えられる。
2	普遍価値	自然性	土地又は工作物の存在及び供用により、景観区内における基盤環境のうち、代表的なものでは、果樹園が 34.3%、クズ群落が 22.0%、アベマキ-コナラ群集が 16.5%、スギ-ヒノキ植林が 12.2% 消失する。景観区内には植生自然度の高い貧養地小型植物群落が存在しているものの改変はされず、ギフチョウの卵塊が確認されているスギ-ヒノキ植林の消失割合も 12.2% と低いため、自然性の価値の変化は小さいものと考えられる。
		視認性	土地又は工作物の存在及び供用により、事業実施区域周辺では田園環境を眺望する視野範囲内に対象道路が視認される可能性があるが、眺望景観に占める割合は小さいと想定されるため、視認性の価値の変化は小さいと考えられる。
		利用性	土地又は工作物の存在及び供用により、水田や畑が消失するため、一部の場所で農耕活動への影響が生じるが、その消失割合は水田が 7.4%、畑が 3.6% と低いため、利用性の価値の変化は小さいと考えられる。
	固有価値	郷土性	土地又は工作物の存在及び供用により、郷土性に変化が生じる可能性があるが、景観区内における改変面積の割合は 10.3% であり、当該地域の主要な景観構成要素である水田の消失割合は 7.4% であるため、郷土性が失われるほど景観が大きく変化することはないことから、郷土性の価値の変化は小さいものと考えられる。

表 6.11-17(2) 困繞景観の価値の変化（岩屋堂地区）

No.	価値軸	認識項目	価値の状況
3	普遍価値	自然性	土地又は工作物の存在及び供用により、景観区内における基盤環境のうち、代表的なものではスギ・ヒノキ植林が 5.7%、水田が 4.6%、畑が 2.2% 消失する。景観区内には植生自然度の高い植生は存在しておらず、各基盤環境の消失割合は 2.2%～5.7%と低いものの、消失するスギ・ヒノキ植林内にはハナノキ、シデコブシの生育が確認され、オオタカの生息も確認されていることから、それらに近接する環境の一部が消失することで自然性の価値が変化すると考えられる。
		視認性	土地又は工作物の存在及び供用により、事業実施区域周辺の一部では笠置山を眺望する視野範囲内に対象道路が視認される可能性があるが、笠置山の眺望が阻害されることはなく、山々により形成されるスカイラインを横断しないため、視認性の価値の変化は小さいと考えられる。
		利用性	土地又は工作物の存在及び供用により、水田や畑が消失するため、一部の場所で農耕活動への影響が生じるが、その消失割合は水田が 4.6%、畑が 2.2%と低いいため、利用性の価値の変化は小さいと考えられる。
	固有価値	固有性	土地又は工作物の存在及び供用により、オオタカの営巣木や境や東海丘陵要素植物のハナノキ群生地は直接改変されないものの、多様な自然環境を有する岩屋堂の村落内を対象道路が横断するため、固有性の価値が変化すると考えられる。
		郷土性	土地又は工作物の存在及び供用による、景観区内における改変面積の割合は 2.6%、当該地域の主要な景観構成要素である水田の消失割合は 4.6%と低いものの、約 400 年以上前から存在している ^{※1} と考えられている岩屋堂の村落内を対象道路が横断するため、郷土性の価値の変化があると考えられる。
4	普遍価値	自然性	土地又は工作物の存在及び供用により、景観区内における基盤環境のうち、代表的なものでは浮遊植物群落が 23.1%、水田が 16.9%、畑が 8.6%、スギ・ヒノキ植林が 2.7% 消失する。景観区内には自然植生度の高い植生は存在しておらず、各基盤環境の消失割合は高いもので 23.1%であるが、消失するスギ・ヒノキ植林内にはハナノキ、シデコブシの生育が確認され、オオタカの生息も確認されていることから、それらに近接する環境の一部が消失することで自然性の価値が変化すると考えられる。
		視認性	土地又は工作物の存在及び供用により、事業実施区域周辺の一部では恵那山を眺望する視野範囲内に対象道路が視認される可能性があるが、恵那山の眺望を阻害されることはなく、山々により形成されるスカイラインを横断しないため、視認性の価値の変化は小さいと考えられる。
		利用性	土地又は工作物の存在及び供用により、水田や畑が消失するため、一部の場所で農耕活動への影響が生じるが、その消失割合は水田が 16.9%、畑が 8.6%と低いいため、利用性の価値の変化は小さいと考えられる。
	固有価値	固有性	土地又は工作物の存在及び供用により、オオタカの営巣木や境や東海丘陵要素植物のハナノキ群生地は直接改変されないものの、多様な自然環境を有する岩屋堂の村落内を対象道路が横断するため、固有性の価値が変化すると考えられる。
		郷土性	土地又は工作物の存在及び供用による、景観区内における改変面積の割合は 5.6%と低いものの、約 400 年以上前から存在している ^{※1} と考えられている岩屋堂の村落内を対象道路が横断するため、郷土性の価値の変化があると考えられる。

表 6.11-17(3) 困繞景観の価値の変化（千旦林地区）

No.	価値軸	認識項目	価値の状況
5	普遍価値	自然性	土地又は工作物の存在及び供用により、景観区内における基盤環境のうち、代表的なものでは、アベマキ-コナラ群集が34.4%、放棄水田雑草群落が22.0%、セイタカアワダチソウ群落が19.8%消失する。景観区内には植生自然度の高い植生は存在しておらず、当該地域の主要な景観構成要素である水田や畑の消失割合も10.7%~12.3%であることから、自然性の価値の変化は小さいものと考えられる。
		視認性	土地又は工作物の存在及び供用により、事業実施区域周辺の一部では笠置山を眺望する視野範囲内に対象道路が視認される可能性があるが、眺望景観に占める割合は小さいと想定され、山々により形成されるスカイラインを横断しないため、視認性の価値の変化は小さいと考えられる。
		利用性	土地又は工作物の存在及び供用により、水田や畑が消失するため、一部の場所で農耕活動への影響が生じるが、その消失割合は水田が10.7%、畑が12.3%と低いため、利用性の価値の変化は小さいと考えられる。
	固有価値	郷土性	土地又は工作物の存在及び供用により、郷土性に変化が生じる可能性があるが、景観区内における改変面積の割合は12.6%であり、当該地域の主要な景観構成要素である水田や畑の消失割合は10.7%~12.3%であるため、郷土性が失われるほど景観が大きく変化することはないことから、郷土性の価値の変化は小さいものと考えられる。
6	普遍価値	自然性	土地又は工作物の存在及び供用により、景観区内における基盤環境のうち、代表的なものでは、放棄水田雑草群落が29.0%、アベマキ-コナラ群集が26.5%、セイタカアワダチソウ群落が23.9%消失する。景観区内には植生自然度の高い植生は存在しておらず、当該地域の主要な景観構成要素である水田や畑の消失割合も0.4%~12.4%であることから、自然性の価値の変化は小さいものと考えられる。
		視認性	土地又は工作物の存在及び供用により、事業実施区域周辺の一部では恵那山を眺望する視野範囲内に対象道路が視認される可能性があるが、眺望景観に占める割合は小さいと想定され、山々により形成されるスカイラインを横断しないため、視認性の価値の変化は小さいと考えられる。
		利用性	土地又は工作物の存在及び供用により、水田や畑が消失するため、一部の場所で農耕活動への影響が生じるが、その消失割合は水田が12.4%、畑が0.4%と低いため、利用性の価値の変化は小さいと考えられる。
	固有価値	郷土性	土地又は工作物の存在及び供用により、郷土性に変化が生じる可能性があるが、景観区内における改変面積の割合は10.4%であり、当該地域の主要な景観構成要素である水田や畑の消失割合は0.4%~12.4%であるため、郷土性が失われるほど景観が大きく変化することはないことから、郷土性の価値の変化は小さいものと考えられる。

表 6.11-17(4) 困繞景観の価値の変化（千旦林南地区）

No.	価値軸	認識項目	価値の状況
7	普遍価値	自然性	土地又は工作物の存在及び供用により、景観区内における基盤環境のうち、代表的なものでは、放棄畑雑草群落が 32.1%、水田が 17.9%、クズ群落が 14.4%消失する。景観区内には植生自然度の高い植生は存在しておらず、当該地域の主要な景観構成要素である水田の消失割合も 17.9%であることから、自然性の価値の変化は小さいものと考えられる。
		視認性	土地又は工作物の存在及び供用により、事業実施区域周辺の一部では恵那山を眺望する視野範囲内に対象道路が視認される可能性があるが、眺望景観に占める割合は小さいと想定され、山々により形成されるスカイラインを横断しないため、視認性の価値の変化は小さいと考えられる。
		利用性	土地又は工作物の存在及び供用により、水田や畑が消失するため、一部の場所で農耕活動への影響が生じるが、その消失割合は水田が 17.9%であるため、利用性の価値の変化は小さいと考えられる。
	固有価値	郷土性	土地又は工作物の存在及び供用により、郷土性に変化が生じる可能性があるが、景観区内における改変面積の割合は 11.7%であり、当該地域の主要な景観構成要素である水田の消失割合は 17.9%であるため、郷土性が失われるほど景観が大きく変化することはないことから、郷土性の価値の変化は小さいものと考えられる。
8	普遍価値	自然性	土地又は工作物の存在及び供用により、景観区内における基盤環境のうち、代表的なものでは、放棄畑雑草群落が 37.5%、クズ群落が 19.2%、水田が 12.0%消失する。景観区内には植生自然度の高い植生は存在しておらず、当該地域の主要な景観構成要素である水田の消失割合も 12.0%であることから、自然性の価値の変化は小さいものと考えられる。
		視認性	土地又は工作物の存在及び供用により、事業実施区域周辺の一部では笠置山を眺望する視野範囲内に対象道路が視認される可能性があるが、眺望景観に占める割合は小さいと想定され、山々により形成されるスカイラインを横断しないため、視認性の価値の変化は小さいと考えられる。
		利用性	土地又は工作物の存在及び供用により、水田や畑が消失するため、一部の場所で農耕活動への影響が生じるが、その消失割合は水田が 12.0%であるため、利用性の価値の変化は小さいと考えられる。
	固有価値	郷土性	土地又は工作物の存在及び供用により、郷土性に変化が生じる可能性があるが、景観区内における改変面積の割合は 8.1%であり、当該地域の主要な景観構成要素である水田の消失割合は 12.0%であるため、郷土性が失われるほど景観が大きく変化することはないことから、郷土性の価値の変化は小さいものと考えられる。

表 6.11-17(5) 困繞景観の価値の変化（坂本川地区）

No.	価値軸	認識項目	価値の状況
9	普遍価値	自然性	土地又は工作物の存在及び供用により、景観区内における基盤環境のうち、代表的なものでは、スギ・ヒノキ植林が14.5%、水田が7.8%、畑が4.0%消失する。景観区内には植生自然度の高いツルヨシ群落が存在しているが改変はなく、当該地域の主要な景観構成要素である水田、畑の消失割合も4.0%~7.8%であることから、自然性の価値の変化は小さいものと考えられる。
		視認性	土地又は工作物の存在及び供用により、事業実施区域周辺の一部では恵那山を眺望する視野範囲内に対象道路が視認される可能性があるが、眺望景観に占める割合は小さいと想定され、山々により形成されるスカイラインを横断しないため、視認性の価値の変化は小さいと考えられる。
		利用性	土地又は工作物の存在及び供用により、水田や畑が消失するため、一部の場所で農耕活動への影響が生じるが、その消失割合は水田が7.8%、畑が4.0%と低いため、利用性の価値の変化は小さいと考えられる。
	固有価値	郷土性	土地又は工作物の存在及び供用により、郷土性に変化が生じる可能性があるが、景観区内における改変面積の割合は7.0%と低く、当該地域の主要な景観構成要素である水田や畑の消失割合は4.0%~7.8%であるため、郷土性が失われるほど景観が大きく変化することはないことから、郷土性の価値の変化は小さいものと考えられる。
10	普遍価値	自然性	土地又は工作物の存在及び供用により、景観区内における基盤環境では水田が0.5%消失するのみである。景観区内には植生自然度の高いツルヨシ群落が存在しているが改変はなく、当該地域の主要な景観構成要素である河川も改変されないため、自然性の価値の変化は小さいものと考えられる。
		視認性	土地又は工作物の存在及び供用により、事業実施区域周辺の一部では笠置山を眺望する視野範囲内に対象道路が視認される可能性があるが、眺望景観に占める割合は小さいと想定され、山々により形成されるスカイラインを横断しないため、視認性の価値の変化は小さいと考えられる。
		利用性	土地又は工作物の存在及び供用により、水田や畑が消失するため、一部の場所で農耕活動への影響が生じるが、その消失割合は水田が0.5%と低いため、利用性の価値の変化は小さいと考えられる。
	固有価値	郷土性	土地又は工作物の存在及び供用により、郷土性に変化が生じる可能性があるが、景観区内における改変面積の割合は0.28%と低く、当該地域の主要な景観構成要素である河川は改変されないため、郷土性の価値の変化は小さいものと考えられる。

表 6.11-17(6) 困繞景観の価値の変化（坂本地区）

No.	価値軸	認識項目	価値の状況
1 1	普遍価値	視認性	土地又は工作物の存在及び供用により、事業実施区域周辺の一部では笠置山を眺望する視野範囲内に対象道路が視認される可能性があるが、笠置山を含む山々により形成されるスカイラインを横断しないため、視認性の価値の変化は小さいと考えられる。
		利用性	土地又は工作物の存在及び供用により、水田や畑が消失するため、一部の場所で農耕活動への影響が生じるが、その消失割合は水田が12.5%、畑が18.8%と低いいため、利用性の価値の変化は小さいと考えられる。
	固有価値	郷土性	土地又は工作物の存在及び供用により、郷土性に変化が生じる可能性があるが、景観区内における改変面積の割合は12.0%であり、当該地域は既に人為的な改変を受けた市街地であるため、郷土性の価値の変化は小さいものと考えられる。
1 2	普遍価値	自然性	土地又は工作物の存在及び供用により、景観区内における基盤環境のうち、代表的なものでは、水田が24.1%、畑が18.9%消失する。景観区内には植生自然度の高い植生は存在せず、当該地域の主要な景観構成要素である水田、畑の消失割合は18.9%～24.1%であることから、自然性の価値の変化は小さいものと考えられる。
		視認性	土地又は工作物の存在及び供用により、事業実施区域周辺の一部では恵那山を眺望する視野範囲内に対象道路が視認される可能性があるが、眺望景観に占める割合は小さいと想定され、山々により形成されるスカイラインを横断しないため、視認性の価値の変化は小さいと考えられる。
		利用性	土地又は工作物の存在及び供用により、水田や畑が消失するため、一部の場所で農耕活動への影響が生じるが、その消失割合は水田が24.1%、畑が18.9%であるため、利用性の価値の変化は小さいと考えられる。
	固有価値	郷土性	土地又は工作物の存在及び供用により、郷土性に変化が生じる可能性があるが、景観区内における改変面積の割合は15.3%であり、当該地域は既に人為的な改変を受けた市街地付近であるため、郷土性の価値の変化は小さいものと考えられる。

(3) 環境保全措置の検討

景観法（平成 16 年 法律第百十号）及び「中津川市景観計画」に基づき、事業実施による圍繞景観の価値の変化を極力低減させるよう、引き続き検討を行っていく。

眺望景観の保全に関する方針（景観計画区域）

○恵那山の眺望を守るために直近の眺望点から恵那山を背景にした際に稜線を越えることのないように建物を配置し、調和させます。

○台地上においては建築物を稜線に沿うように配置デザインし、自然に逆らわないようにし、緑化等で修景します。

恵那山眺望の視点場

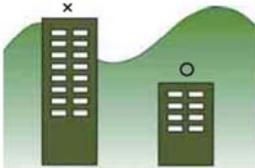


《視点場》

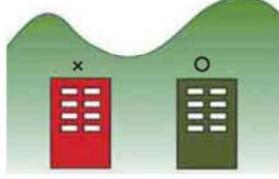
- ① 坂下新橋
- ② 馬籠峠
- ③ 恵乃据橋
- ④ 苗木城址
- ⑤ 西山地区
- ⑥ 坂本地区の広域農道
- ⑦ 恵那駅大橋
- ⑧ 中津川駅
- ⑨ 桃山公園
- ⑩ 中津川橋

【視点場における建築物等のあり方】

■位置・形状
視点場から山並み稜線を越えないよう配慮し、建築物等の位置と形状に配慮します。



■色彩
山並みを背景とした色彩について配慮します。



(4) 評価結果

1) 評価手法

土地又は工作物の存在及び供用に係る景観への影響が、事業者により実行可能な範囲内でできる限り回避又は低減されているかどうかについて、見解を明らかにすることにより評価を行った。

2) 評価結果

景観への影響については、現段階では事業者により実行可能な範囲内でできる限り回避され又は低減されており、環境保全についての配慮が適正になされていると評価する。